

科目：マクロ経済学Ⅱ 日時：2024年7月30日5限目 満点：400点 教員：齊藤誠

1. (150点) 以下の閉鎖経済モデルと開放経済モデルについて 1.1 から 1.3 の問いに答えなさい。ノテーションについては、講義に用いたものに従う。

【閉鎖経済モデル】

$$C = 0.8Y + C_0$$

$$I = -4r + I_0$$

$$Y = C + I + G$$

【開放経済モデル】

$$C = 0.8Y + C_0$$

$$I = -4r + I_0$$

$$NX = -0.2Y - 4r + NX_0$$

$$Y = C + I + NX + G$$

- 1.1. (50点) 閉鎖経済モデルと開放経済モデルのそれぞれについて、IS 曲線を求めなさい。
- 1.2. (50点) 閉鎖経済モデルと開放経済モデルについて、政府支出 G が一単位増えたときに ($\Delta G = +1$)、実質 GDP に相当する Y がどれだけ増えるのか (ΔY) を比較しなさい。また、なぜ、2つのモデルに違いが生じるのかを説明しなさい。
- 1.3. (50点) 閉鎖経済モデルと開放経済モデルについて、金利 r (ここでは、名目金利と実質金利に違いがない) が一単位低下したときに ($\Delta r = -1$)、実質 GDP に相当する Y がどれだけ変化するか (ΔY) を比較しなさい。また、なぜ、2つのモデルに違いが生じるのか、あるいは、違いが生じないのかを説明しなさい。
2. (150点) 以下の2つの表は、2011年7月と2024年1月について、アメリカ、中国、日本、韓国のビッグマックの現地価格とその時点での各国通貨の1米ドルに対する為替レートをまとめたものである。ただし、計算をしやすいように数値を大胆に丸めている。2.1 から 2.3 の問いに答えなさい。

2011年7月 時点	現地通貨表示のビッグ マック価格		1ドルあた りの為替 レート
アメリカ	4	ドル	1
中国	15	元	6
日本	320	円	80
韓国	4,000	ウォン	1000

2024年1月 時点	現地通貨表示のビッグ マック価格		1ドルあた りの為替 レート
アメリカ	6	ドル	1
中国	25	元	7
日本	450	円	150
韓国	5,500	ウォン	1375

- 2.1. (30点) 24年1月時点で、米ドル100ドルを持っているとして、アメリカ、中国、日本、韓国を訪れて、米ドルを現地通貨に換えてビッグマックを何個買えるのかを計算しなさい。
- 2.2. (50点) 2.1の問いにおいて「米ドル100ドルで買えるビッグマックの個数が多いほど、その国の通貨は米ドルに対して購買力が劣る」と考えることができる。なぜ、そのように解釈できるのかを簡単に説明しなさい。
- 2.3. (70点) 円通貨の購買力は、2011年7月から2024年1月の期間において、米ドル、中国元、韓国ウォンに対してどのような変化に直面したのかを簡単に説明しなさい。

3. (100点) 以下は、2人の学生と教員の間の会話である。3.1の問いに答えなさい。

A 学生「一国の経済成長の原動力の1つは資本蓄積だから、貯蓄率を高めて資本蓄積を促すほど、経済成長が高まって、国民は豊かになるよね。」

B 学生「そうかなあ？貯蓄率を高めるって、裏返しに言えば、消費の割合を低めることだろう。それって、国民が消費を切り詰めて我慢しろってことだよね。そうだとすると、いくら経済成長をしたとしても、国民がかえって貧しくなるんじゃないかなあ…」

C 教員「2人とも、経済成長について非常に重要な指摘をしているね。君たち2人は、貯蓄率を高めると経済成長が促進されるってところは合意しているけど、「高い経済成長=国民の豊かさ」という点では、意見が一致していないね。A君は、『国民が豊かになる』といっているし、B君は、『国民はかえって貧しくなる』といっているよね。」

- 3.1. (100点) C先生は、どうやら、A君の主張も、B君の主張も、決して間違っていないと判断しているようである。
- そこで、君たちは、どのようなケースにおいて、A君の主張が正しく、どのようなケースにおいて、B君の主張が正しいのかを論じなさい。論じる場合に、「ソローモデル」、「黄金律」、「定常状態」という用語を必ず用いなさい。議論をする場合に、言葉による説明とともに、数式やグラフによる説明を加えてもよい。